

目次

緒言	i
序説「方言語法 方言文法 方言表現法」	1
首篇 方言生活相	3
第一章 方言会話	5
◎「会話」との言いかたをすること	5
第一節 方言会話の実状	6
一 例の一つ——「伊予八幡浜弁」	6
二 例の一つ——「瀬戸内海伊予大三島北端弁」	8
第二節 方言会話汎論	10
一 人と話題	10
二 会話展開の中での話者の冒頭のことば	12
三 変換自由	13
四 会話展開の途中での会衆の心づかい	14
五 待遇意図	14
六 待遇表現法での文末のことば	15
七 表現類型として注意すべきもの	16
八 会話態度	17
九 会話テーマ	17
十 方言会話での心ばせ	17
十一 方言会話の内面	18
第三節 方言会話実状（前掲）についての分析的考察	18
一 前引例「伊予八幡浜弁」のばあいについて	18
二 前引例「瀬戸内海伊予大三島北端弁」のばあいについて	21

三 むすび	24
第二章 会話（という「ことばの生活」）でのあいさつ	25
～ あいさつのことばでの方言文法～	
第一節 あいさつことばの本質（本性）	25
第二節 あいさつ表現法——その諸特色——	26
一 名詞的表現のこなた	26
二 文形のあいさつことば	27
三 述部相のもの	29
四 修飾相のもの	30
五 接続相のもの	31
六 感声相のもの	34
七 あいさつ表現の長「一文」・連文	34
八 あいさつのことばと非あいさつのことば	36
九 むすび	36
1 あいさつことばの複雑と簡潔と	36
2 あいさつことばの性別特色・階層特色	37
3 あいさつことばの新時代・新様式	37
4 あいさつことばの永遠性	38
第三章 会話～方言生活～での音声面	39
第一節 文表現法のばあい	39
〔抑揚 文末の声調〕	
第二節 文表現の「部分」に注目される声調	40
第三節 「語音」の音調	42
第四節 「接頭辞・接尾辞」の音相	42
付 節 敬卑表現法と音相	43
第一篇 実 詞	45

第一章 名 詞	47
第一節 名詞形成の文法	47
一 文的形成	47
二 長形名詞	48
三 擬態・擬声の名詞製作	49
四 「名詞＋動詞連用形＋名詞」	49
五 「名詞＋動詞」と「動詞＋名詞」	50
六 「名詞＋名詞」	51
七 「修飾語＋名詞」	52
八 簡潔形	52
第二節 臨時名詞形～文表現のための臨時創作～	53
第三節 名詞どめ文表現	54
第四節 「名詞」文	56
第五節 一音節名詞	57
第二章 数 詞	59
□ 数詞の存在	59
第一節 日本語の原数詞	59
一 原本的な数詞	59
二 原数詞の運用	61
第二節 ‘助数詞’の成立	61
第三節 ‘助数詞’（助数辞）の二方向	61
一 和語の方向	62
二 漢字利用の方向	62
第四節 数詞慣用の諸態	63
第三章 代名詞	66
第一節 人称代名詞——自称	66

□ はじめに	66
一 「オレ」系のもの	66
1 九州地方	66
南部地方	66
「熊本県一般・佐賀県下・長崎県下・福岡県下」地方	70
「宮崎県下一般・大分県下」地方	73
2 東国地方	74
奥羽方面北海道も	74
関東地方	77
中部地方	78
3 「近畿・中国・四国」方面	79
近畿地方	79
「中国・四国」の地方	81
二 「吾・我」系のもの	82
三 「わたくし」(私)系のもの	88
1 九州地方	88
2 中国地方	91
3 四国地方	93
4 近畿地方	94
5 中部地方	95
6 関東地方	96
7 奥羽地方	97
四 「われ」とあるもの	97
五 「コチ」など	99
六 「ウチ」	100
七 その他	103
第二節 人称代名詞——対称	105

一 「アナタ」	105
二 「アータ」「アッタ」	106
三 「アンタ」	107
四 「ア」以下	108
五 「イ」「うぬ」(汝)「ウラ」	111
「イ」	111
「うぬ」(汝)	111
「ウラ」	115
六 「オノレ」類	116
七 「オミ」(お身)類	119
八 「オヌシ」(お主)類	121
九 「オマエ」(お前)類	123
十 「オモト」(お許)	135
十一 「オウチ」(お内 ^家)その他	135
<以下五十音順に>	135
十二 「キサマ」(貴様)	135
十三 「こなた」(此方)類	137
十四 「コレ系」のもの	142
十五 「ジン」	144
十六 「ソナタ」(其方)類	144
十七 「ソッチ」	146
十八 タ・ダ行音のもの	146
十九 ナ行音のもの	148
二十 「ヌシ」「ニシ」「ノシ」	150
二十一 「ネラ」	154
二十二 「バー」	154
二十三 「ファ」(vva)	154

二十四 「ヤド」「ヤー」	155
二十五 「ヨイ」	156
二十六 「ワ」	157
二十七 「ワレ」「ワリ」「ワル」「ワイ」	160
二十八 「ワゴリョ」ほか	164
～「ワ」にはじまるもの～	
二十九 「ン」にはじまるもの	166
第三節 人称代名詞——他称	167
一 「コ」系	167
二 「ソ」系	170
三 「ア」系	171
四 その他	176
第四節 人称代名詞——不定称	179
一 グレ	179
二 ダイツ	183
三 ドナタ	184
第五節 指示代名詞	184
○ はじめに	184
一 事物～近称	186
二 事物～遠称	191
三 事物～中称	197
四 事物～不定称	197
五 場所～近称	199
六 場所～遠称	203
七 場所～中称	206
八 場所～不定称	208
九 方向～近称	211

十 方向～遠称	213
十一 方向～中称	214
十二 方向～不定称	214
おわりに	215
一 敬意表現法の発達と代名詞の発達	215
二 人称代名詞中の自称詞・対称詞	216
三 代名詞の性・数	216
四 中称詞の問題	217
五 「代名詞」史観	217
第四章 体言の接辞	218
第一節 接辞文法→接辞法	218
第二節 接頭辞	235
一 「オ」	235
一' 「オン」	236
一" 「オ～サン (サマ)」	237
二 「ゴ」	238
二' 「ゴ～サン (サマ)」	239
三 「オ・ゴ」のほかのもの	239
第三節 接尾辞	246
一 「サマ」	246
二 「サー」	251
三 「サ」	254
四 「マ」	257
五 「サン」	259
六 「シャン」「ツァン」「ツァ」「チャン」(チン)(キン)「タン」「チャ」 「チー」	264

七 「ハン」	267
八 「ヤン」「ヤー」	270
九 「タチ」「ラチ」	274
十 「ジャ」(者)「ニャ」	276
十一 「コー」(「コ」)	277
十二 「キン」	278
十三 「シ」	278
十四 「ジョ」	279
十五 「ドモ」	280
十六 「ドノ」「ドン」	280
十七 「ラ」	283
十八 以上列举のほかのもの	283
(アイウエオ順にかかげる。)	
〈人をさすものもある。〉	
第四節 接中辞	294
第五章 動 詞	296
第一節 二段活用	296
一 はじめに	296
二 九州各県の状況	296
三 中国四国の状況	299
四 近畿状況	300
—— 関西内での二段活用残存事情	
付 近畿以东のこと	300
第二節 ラ行五段活用	303
一 はじめに	303
二 「出らん」「起キラん」などのばあい	304

(「らん」相当の「ヤん」もおこっている。)	
三 命令形「出レ」「起キレ」の類	314
四 命令形「出ロ」「起キロ」の類	322
第三節 禁止命令表現での動詞「～ナ」	330
第四節 変格活用	344
一 サ 変	344
二 ナ 変	348
三 ラ変と五段活用「アル」	348
第五節 動詞連用形	351
第六節 動詞の進行態	358
一 はじめに	358
二 九州地方	358
三 中国地方	363
□瀬戸内海大三島北端集落方言のばあい	363
四 四国地方	371
五 近畿地方	375
六 中部地方	382
七 南島方面のこと	385
第七節 動詞の存在態	386
一 はじめに	386
二 西南諸島方面のもの	387
三 いわゆる本土での問題事象の大様	388
四 九州地方	389
1 「動詞連用形+て+オル」=「～チョル」	389
2 「動詞連用形+て+オル」=「～トル」	394
五 中国地方	397
1 「～チョル」	397

2 「～トル」	399
六 四国地方	401
1 「～ Chol」	401
2 「～トル」	403
七 近畿地方	404
八 中部地方	411
九 関東以北の地域	415
第六章 形容詞	417
第一節 形容詞の存立	417
第二節 形容詞形態	417
第三節 方言形容詞の地方性	419
一 九州地方	419
二 中国地方	423
三 四国地方	425
四 近畿地方	426
五 中部地方	428
六 関東地方	431
七 奥羽地方	432
八 西南諸島方面	435
第七章 いわゆる形容動詞	437
第一節 形容語の世界	437
一 いわゆる形容動詞の創定	437
二 いわゆる形容動詞の自由新作を多分に見てきた私の個人体験	438
三 形容語要求の自然	440
第二節 いわゆる形容動詞の存立を地方に見る	440
一 九州地方	440

二 中国地方	442
三 四国地方	444
四 近畿地方	444
五 中部地方	445
六 東国地方	446
第八章 用言の接辞	448
〈小著『民間造語法の研究』をご参照くださるならば幸甚である。〉	
第一節 動詞の接辞	448
一 接頭辞	448
1 九州地方	448
2 中国地方	458
3 四国地方	460
4 近畿地方	462
5 中部地方	463
6 関東地方	466
7 奥羽地方	470
二 接尾辞	472
1 九州地方	472
2 中国地方	474
3 四国地方	477
4 近畿地方	479
5 中部地方	480
6 関東地方	482
7 奥羽地方	482
三 接中辞	484
□ はじめに	484

1 「カ」接中辞	484
2 「ク」	486
3 「ケ」	487
4 「ト」	487
5 「ヤ」	488
□ むすび	488
第二節 形容詞の接辞	488
一 接頭辞	488
1 「アタ」	489
2 「ウド」	489
3 「オ」	489
4 「オボ」	490
5 「オロ」	490
6 「カン」	490
7 「クソ」	490
8 「ケ」	490
9 「コ」	491
10 「ザザ」	491
11 「シシラ」	492
12 「シチ」	492
13 「ダダッ」	492
14 「チョロ」	492
15 「ド」	492
16 「ナマッ」	493
17 「バ」	493
18 「ヒキタリ」	493
19 「ヒコ」	494

20 「ヒチ」	494
21 「ヒョロ」	495
22 「へ」	495
23 「ホータラ」	495
24 「ホッポロ」	495
25 「ホテ」	496
26 「ホロ」	496
27 「マッ」	496
28 「モノグ」	496
29 「ヤッ」	497
二 接尾辞	497
1 「ガマシー」	497
2 「カマシー」	498
3 「クサイ」	498
4 「クタイ」	499
5 「クルシー」	500
6 「コイ」	501
7 「コタシー」	502
8 「タラシー」	502
9 「タマシカ」「タラシカ」	502
10 「ツケナイ」	503
11 「ニクイ」	503
12 「ポイ」	503
13 「ボッタイ」	504
14 「ラシー」	504
15 「ロシー」	504
16 「ラシカ」「ロシカ」	505

三 接中辞	505
1 「ク」	505
2 「クタ」	506
3 「コー」	506
4 「ト」	507
5 「テ」	507
第三節 形容動詞のばあい	507
第二篇 助 辞	510
第一章 助詞と助動詞	513
第二章 助詞 ～ 格助詞	515
(「ガ」「ノ」「ヲ」「カラ」だけを取りあげる。)	
第一節 「ガ」	515
一 九州地方	515
1 主 格	515
2 属 格	515
3 主格辞「ガ」相当の「イ」	516
二 中国地方	517
1 主 格	518
2 属 格	519
3 主格辞「ガ」相当の「サ」	520
三 四国地方	520
1 主 格	520
2 属 格	523
3 主格辞「ガ」相当の「ワ」	525
四 近畿地方	525
1 主 格 (ア・ヤ・ナ・ン・「ガ略」)	525

2 属 格	529
五 中部地方	530
1 主 格	530
2 属 格	538
六 関東地方	541
1 主 格	541
2 属 格	542
七 奥羽地方	543
1 主 格	543
2 属 格	549
第二節 「ノ」 ～ 主格表示での敬意表現法	550
一 九州地方	550
二 中国地方	556
三 四国地方	558
四 近畿地方	559
五 中部地方	560
六 関東地方	561
七 奥羽地方	562
第三節 「を」の「バ」	563
第四節 「カラ」 ～ 特用のいくらか	572
第三章 助 詞 ～ 副助詞	578
第一節 「ばかり」関係のもの	578
一 九州地方	580
二 中国地方	582
三 四国地方	583
四 近畿地方	585

五 中部地方	586
六 関東地方	586
七 奥羽地方	586
八 北海道地方	588
第二節 バシ	588
第三節 「シカ」の類	591
一 九州地方	592
二 中国地方	592
三 四国地方	594
四 近畿地方	595
五 中部地方	596
六 関東地方	598
七 奥羽地方	599
八 「シカ」の意の「コソ」	600
第四節 琉球の「ぞ」	601
第五節 特異副助詞 小集	602
第四章 助 詞 ～ いわゆる係助詞	607
第一節 「は」助詞の論	607
第二節 「特立」機能の「は」の広用 ～ 三重県下一小方言のばあい ～	610
第三節 諸地方に「は」関係の事態を見る	613
一 九州地方	613
二 中国地方	616
三 四国地方	617
四 近畿地方	618
五 中部地方	619
六 関東地方	621

七 奥羽地方	622
第五章 助 詞 ～ 接続助詞	623
○ はじめに	623
一	623
二	624
第一節 「バッテン」類	625
第二節 「ドモ」関係のもの	631
第三節 「サカイニ」類	636
第四節 「て」「と」にかかわる特殊な言いかたの接続助詞	639
第六章 助動詞	643
第一節 助動詞特説	643
第二節 ベーベーことば	644
○ はじめに	644
一 北海道地方	645
二 奥羽地方	646
三 関東地方	653
四 中部地方 ほか	657
第三節 ズラ・ラ	660
第四節 ゴト・ゴタル	665
第五節 ダ・ジャ・ヤ	672
第三篇 本体詞	675
〔連体詞・副詞・接続詞・感動詞・間投詞・文末詞〕	
回 本体詞 汎論	677
第一章 連体詞	679
第二章 副 詞	686
□ 副詞 汎説	686

□ 副詞存立の地方性	687
第一節 小方言間での副詞語彙対立	687
一 中国地方西端の山口県下一小方言	687
二 四国地方東端の徳島県下一小方言	690
第二節 同 上	693
一 四国地方の高知県下のばあい	693
二 中国地方の島根県出雲のばあい	695
第三節 同 上	699
一 九州地方福岡県下の一小方言	699
二 奥羽地方の小方言	703
1 秋田県下のばあい	703
2 青森県「津軽方言」のばあい	708
第四節 各地方に特異副詞を見る	709
一 沖縄のばあい	709
二 九州地方	710
三 中国地方	713
四 四国地方	715
五 近畿地方	717
六 中部地方	720
七 関東地方	725
八 奥羽地方	729
九 北海道地方	732
第三章 接続詞	734
□ 接続詞 汎説	734
第一節 サ行音にはじまるもの	736
第二節 ハ行音にはじまるもの	740

第三節 ン音にはじまるもの	744
第四節 その他	745
第四章 感動詞	748
□ 感動詞 汎説	748
第一節 ア行音にはじまるもの	749
一 九州地方	749
二 中国地方	752
三 四国地方	753
四 近畿地方	756
五 中部地方	757
六 奥羽地方	759
第二節 サ行音にはじまるもの	761
第三節 ハ(バ)行音にはじまるもの	762
第四節 ヤ行音にはじまるもの	765
第五節 その他	768
第五章 間投詞	775
□ 間投詞 汎説	775
第一節 九州地方	776
第二節 中国地方	779
第三節 四国地方	783
第四節 近畿地方	785
第五節 中部地方	787
第六節 関東地方	791
第七節 奥羽地方	792
第八節 北海道地方	794
第六章 文末詞	796

第一節 汎 説	796
第二節 地方文末詞 点描	797
第四篇 表現の世界	806
◎ はしがき	807
I 話 部	808
A 話部の把握	808
B 諸方言下に話部を見る	810
一 琉球地方	810
二 九州地方	811
三 中国地方	816
四 四国地方	821
五 近畿地方	823
六 中部地方	825
七 関東地方	828
八 奥羽地方	829
II 文表現〈センテンス〉	833
□ 前 叙	833
A 文表現の諸類型	834
一 体言むすびに持っていく表現法	834
1 琉球地方	834
2 九州地方	838
3 奥羽地方	841
4 中国地方	844
5 四国地方	845
6 近畿地方	846
7 中部地方	848

8 関東地方	850
二 未来化表現法	851
1 九州地方	851
2 中国地方	852
3 四国地方	853
4 近畿地方	853
5 中部地方	854
6 関東地方	857
7 奥羽地方	859
B 一定調査法で見通した諸要地方言での「文表現」の実相	860
◇ 前おき	860
その一 鹿児島県大島郡与論島の方言	863
その二 東京都伊豆諸島大島の方言	873
III 連文表現	883
□ 前 叙	883
その一 奄美諸島の与論島での連文表現 〈この島ご出身、町博光氏のご教示に よる。〉	884
その二 瀬戸内海大三島での連文表現	887
後 語	890
あとがき	892
恩借引用文献一覧	893
索引(事項索引)	919

第一節 方言会話の実状

一 例の一つ——「伊予八幡浜弁」

昭和六十年一月二十日、愛媛県八幡浜市内で、板坂政雄氏のご高助によって、両所の自然会話を録音し得たのが、つぎのものである。

両所 { A 藤尾氏 (68歳) }
 { B 井上氏 (65歳) }

板坂氏お宅での会話である。(私は、先輩の板坂氏とともに同席した。) 会話内容の初部を以下に掲げる。

[センテンス番号]

A ユキオサン。ソクサイヤッタ ナ。 1

行雄さん。元気だったかね?

B ドガナ? ゲンキナ カナ。 2

どんな? 元気かね?

A アレカラ コノマエ オーテカラ、ナガイ アイダニ ナルガヤガ、ア
 ンタ ゲンキナ カイ。 3

あれから、この前、会ってから、長い間になるんだが、あんた、元気かい?

B デアワナダ ナー。ワシモ ビンボーセワシデ ナー。 4

出あわなかったねえ。わしも貧乏いそがしくてねえ。(笑)

(間)

A シカシ ナンヤ ナー。ムカシ オモイダスト ホント イロイロ ア
 ッタ デー。 5

しかしあれだねえ。むかしを思いだすと、いろいろあったよなあ。

B ソー ヨナー。ゲンダイモ カワッテ キタケド、オイツイテ ヨー

イカンデ ナー。コレー。ゲンダイノ ワカイ ヒトノ イキカタニ
 ワ。 6

そうよねえ。現代も変わってきたけど、追いついて行きかねるでねえ。これ。現代の若い人の行きかたには。

(間)

A ドーキューカイ ヤッタ トキ、ムカシバナシ イロイロ ヤッタワケ
 ヤケンド ナー。ヤッパリー、クニキヤ ナー。ハマイ、アソコラヘン
 ノ ヒトハ クロシタ ワイナー。 7

同級会をやった時、むかしばなしをいろいろやったわけだけどねえ。

やっぱり、国樹(人名)やねえ。浜井、あそこらへんの人は、苦勞をしたよねえ。

B ソー ヨナー。アンタ ヨー シットン ナー。ソヤケド ワシラ ホ
 ント ショーガッコイ イクジブンニャー ゴーリ ハイテ ナー。ユ
 キノ フルガニ アノ サカミチオ ガタガタ オリテキタガヤガ。 8

そうよねえ。あんたはよく知ってるねえ。だけど、わしらは、ほんと、小学校に行く時分には、ぞうりをはいてねえ。雪の降るのに、あの坂みちをガタガタ降りてきたんだが。

A ワシラガ サンネンノ トキ ハジメテ フク ユーモンガ ミナ ソ
 ロータ ワケ ヤガ。 9

わしらが三年生の時に、はじめて、服というものがみんなそろったわけだが。

B オー、ソーヤッタ カナー。 10

ええ、そうだったかねえ。

A ソレマデワ アノ ナンヤ ナー、カスリノ キモノデ フユワ ハン
 テン キテ、ヨー ツバイヨッタ。 11

それまでは、あの、あれだねえ、紺の着物で、冬は半てんを着て、よ